

## Q 徘徊（はいかい）とは？

「家に帰る」と言いながら家の周辺を歩き回ったり、家から離れて帰れない状態を言います。現在の自分が置かれている状況と昔の状況を混同していたり、何か不安を持っていたり、憔悴感などから起こります。徘徊には、その人なりの理由がある場合が多いようです。



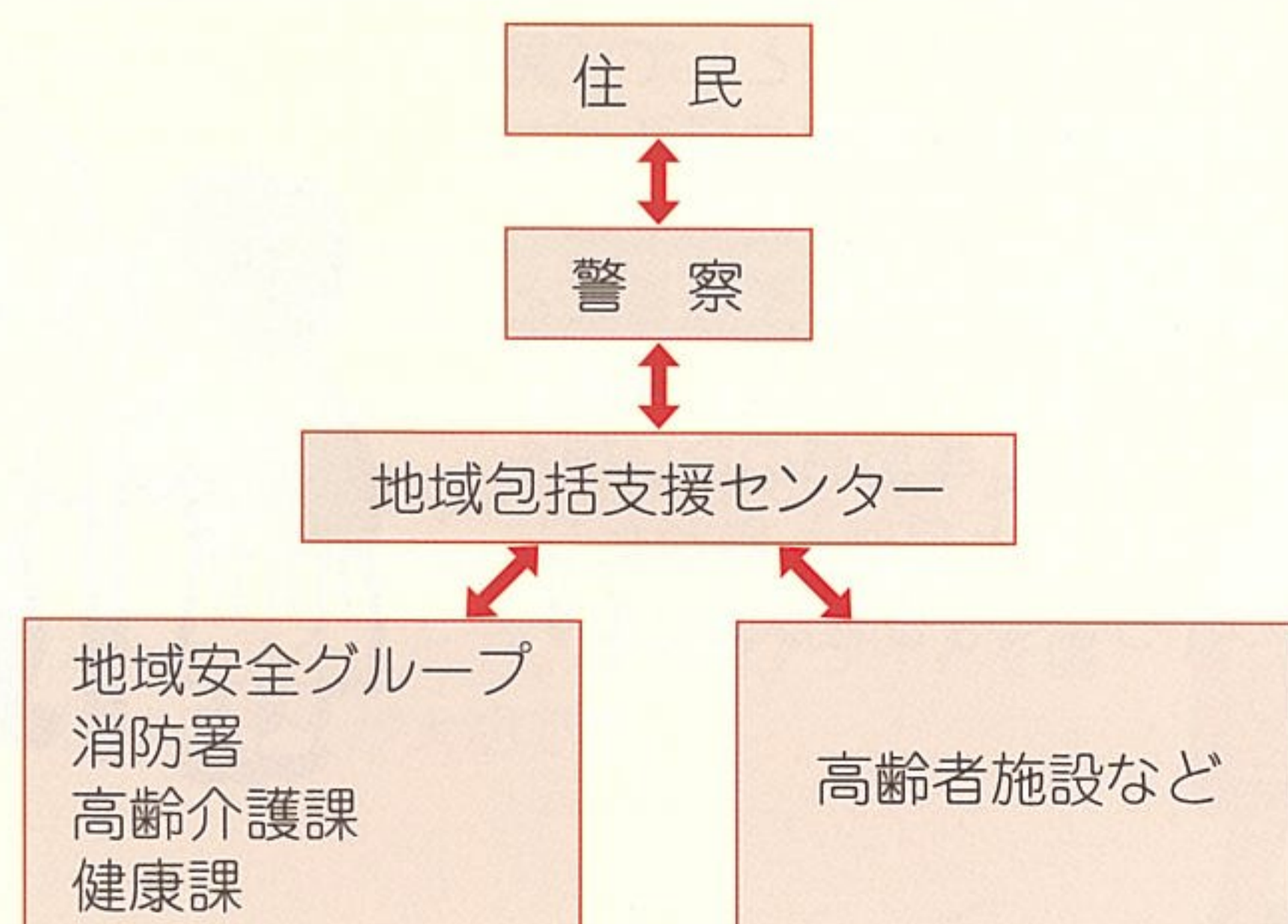
## Q 徘徊はどう対応すればいいのでしょうか？

外へ出ようとしている時に、無理に引き止めると怒ったり、興奮したりするので、「お茶を飲みませんか？」「少し休んでいきませんか？」と声をかけたり、時間があれば一緒に散歩します。

徘徊を繰り返す場合は、徘徊感知機をつけたり、衣服に連絡先を縫いつけておきます。家族だけでは限界があるため、近所や警察に知らせて協力を依頼しましょう。

### はいかい高齢者 SOS ネットワーク

住民の方から警察に、徘徊高齢者の捜索依頼があると、家族の要望により、地域包括支援センターに連絡が入ります。同センターからは市役所内の関係部署や高齢者施設などに連絡し、捜索に協力しています。



## 認知症の方を支えている家族の気持ちを理解する

家族が認知症になり、つい先程のことを忘れてたり、今まで当たり前でできていたことができなくなると、家族は戸惑い悩みます。介護をひとりで抱え込み、「どうして私だけが…」という思いや孤独感を感じている家族も少なくありません。

### 認知症の方の家族がたどる4つの心理ステップ

#### ■第1ステップ（とまどい・否定）

「あんなにしっかりしていたのに、まさか」と異常な言動に戸惑います。また、他の人にうちあけられずに悩みます。

#### ■第2ステップ（混乱・怒り）

認知症の方に対応してよいかわからず、ささないなことで叱ったりしてしまいます。この時がお互いに最もつらい時期です。

#### ■第3ステップ（割り切り）

病気の理解ができて、「怒っても何のメリットもない」と思うようになります。また、「医療や介護サービスを利用して他者の協力を得る方がよい」と気持ちに変化が出てきます。

#### ■第4ステップ（受容）

認知症の方を家族の一員として、そのまま自然に受け入れることができるようになります。

介護者は4つのステップをいったりきたりしながら認知症の方と向き合っています。住み慣れた地域で、認知症の方やその家族が自然体で暮らし続けることができるようにあたたかく見守ることが大切です。

## 介護者を支える地域づくり

核家族化や働く女性の増加で、夫や子息が介護の担い手になることも増えてきました。同時に両親2人や親と配偶者を介護するケースもあります。

また、男性介護者は、もともと家事を担っていなかった方も多く、家事と介護両方の負担がかかってきます。介護者の中には、「私が倒れたら、誰が介護を代わりにしてくれるのだろう」と一人で悩んでいる方もおられます。その結果、介護者の体調管理ができず、介護者自身が体調を崩して、共倒れになる危険もあります。

